

令和2年度 学校経営計画

四條畷市立四條畷小学校
校長 羽 森 清 司

1 学校経営方針

令和2年度から小学校で本格実施される「新学習指導要領」には、改訂の背景に、「学校で学んだことが、子どもたちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい。」という願いがこめられている。このように、子どもたちがこれから生きていく時代は、世の中の大きな変革期と重なり、国際的な競争が一層激化することが予想される。この変化の激しいこれからの社会を生きていくためには、あらゆる人々と共に学び、互いの意見を尊重し、直面する課題に対して、柔軟かつ真摯に対応していく力が求められる。その力の基盤を育成する学校教育においては、知・徳・体と言われる「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をバランスよく育て、「生きる力」を育成していくことが求められている。

令和2年度は第3期四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画の3年目に当たる。本校では、過去3年にわたり、大阪府教育庁の「アクティブスクール推進事業（AS）」、「確かな学びを育む学校づくり推進事業（TM）」、「スクールエンパワメント推進事業（SE）」の研究指定を受け、国語科を中心に学力向上のための研究を推進してきた。今年度は、この3年間の成果をさらに向上させるべく、児童の学力向上に取り組んでいきたい。併せて令和2年4月1日に四條畷東小学校と本校が学校統合を行ったことから、「新しい学校」の創造に向け、様々な角度から十分な配慮を行い、両校の児童・教職員・保護者のスムーズな接続を実現していきたい。そして、特に不安をかかえる児童がいないかなど、全教職員で状況を注視しながら取り組みを進めていきたい。本年度も本校の教育目標を達成するために、新たな教職員の力を得て、全教職員が個々の経験と持てる力を一つに結集して学校運営に取り組んでいく所存である。

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	統合後に子どもたち一人ひとりがより輝く「新しい学校」
★めざす子ども像	よく考えてやりぬく子 力を合わせてがんばる子 丈夫な体と豊かな心を持つ子
★めざす教師像	発想と実行力を兼ね備え、より指導力を発揮できる教師

【学校教育目標】

「よく考えてやりぬく子 力を合わせてがんばる子 丈夫な体と豊かな心を持つ子」

3 学校の現状

(1) 子どもたちの実態と取り巻く教育環境

今年度で134年目を迎え歴史と伝統が感じられる「暁小」と46年の歳月の間地域に見守られ、脈々と歴史を紡いできた「東小」で、児童は明るく健やかに育ってきている。また、それぞれの学校において、その伝統と気風を継承する保護者・卒業生も多数おられる。しかしながら、一方で校区（暁小・旧東小）には、厳しい家庭環境で育つ児童も昨今増えてきている。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①地域 両校区とも、昔からの伝統のある地区を要し、学校に協力的である。

②組織（教職員、PTA、保護者）

- ・教職員は、児童の指導に熱意があり、課題のある児童・保護者にも丁寧に接している。
- ・PTAも歴史と伝統を引き継ぎ、代々学校と連携してPTA活動を行ってきており、今も暁小には後援会が存在している。
- ・保護者は、学校に協力的な方が多い。また、子どもたちをいつまでも温かく見守り、楽しい行事等を考えてくださる「おやじの会」という組織が保護者やOBで構成されている。

4 今年度の重点取組み、具体的な方策

重点的な取組み事項－1

統合後に子どもたち一人ひとりがより輝く

「新しい学校」の創造

A 今年度の成果目標

統合後に不安感がなく、楽しく健やかに学校生活を送れ、一人ひとりがより輝く児童の育成

B 目標実現に向けた取組み

項目	具体的な方策
① 学校ルールの再確認 「ゆずりあいの精神・協力の一年」を行動規範とする。	・児童の中に、東小では・・・、暁小では・・・というような気持の芽生えが起こらないような取り組み。 ・これまで育った学校を互いに尊重し、ゆずりあい協力しあう態度を養う。
② 東小・暁小の互いの校区探検	・コミュニケーション力の授業や年間行事に校区探検を組み込み、互いの校区を知ろうとする態度を養う。
③ 両校の歴史・四條暁の歴史学習	・生活科・社会科を活用した歴史学習を行い、郷土を愛する態度を養う。
④ 統合後に戸惑いや不安感を持つ児童の割合の減少	・該当児童に寄り添って、その気持ちをできるだけほぐすような対応を行っていく。

重点的な取組み事項－２	(１)「確かな学力」の定着
A 今年度の成果目標	
落ち着いた学習環境で行う確かな学力の向上	
B 目標実現に向けた取組み	
項目	具体的な方策
① 子どもが学びの主体になる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実践・研究 ・本年度二年目となる、「書くこと」における指導法の研究実践
② 学習規律の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・私語が少なく、落ち着いた教室をつくる。 ・基本的な生活習慣を確立する。 ・学習規律、学校生活のきまりの徹底
③ 自学自習力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習に取り組む子どもを増やし、家での学習時間が30分未満の子どもを減少させる。 ・家庭学習習慣定着のための保護者への啓発協力依頼
④ 読書習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館支援員、市立図書館を活用した、読書に親しむ子どもの育成

重点的な取組み事項－３	(２)「豊かな心」と「コミュニケーション力」の育成
A 今年度の成果目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育全体を通して、人権教育、支援教育、道徳教育、郷土愛の醸成に取り組む。 ・プログラミング的思考の醸成と英語を通じたコミュニケーション力の育成 	
B 目標実現に向けた取組み	
項目	具体的な方策
① 人権教育・支援教育の深化	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学級児童を含めた子ども一人ひとりを大切にする人権教育の深化と教職員の人権意識の向上
②道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通じた道徳教育の推進と、教材の読み込み中心の授業から考え議論する道徳への転換。 ・道徳教育を「豊かな心」の育成といじめの未然防止へ活用する。
③郷土教育	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土を愛し、誇りに思う気持ちの醸成
④プログラミング教育・外国語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校段階におけるプログラミング的思考などを育成する ・ALT と連携した英語教育の充実

重点的な取組み事項－４	(3) 自己肯定感・自己有用感・自尊感情をはぐくむ学校・ 学級づくり
-------------	---------------------------------------

A 今年度の成果目標	
・両校児童が、安心して学校生活を送れる環境と自己肯定感・自己有用感・自尊感情の醸成	
B 目標実現に向けた取組み	
項目	具体的な方策
①適切な集団づくり	・ペア学年・学級の交流とペア学習やグループ学習の推進
②いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応	・こども支援コーディネーターを活用した取り組み ・いじめアンケートを活用した早期発見、早期対応
③校内委員会での教職員間の情報共有とケース会議の充実	・こども支援コーディネーターの役割の明確化 ・ケース会議の実施→チームとしての対応 ・カンファレンスシートや個別調査カードの情報管理

重点的な取組み事項－５	(4) 体力向上と健康安全教育の推進
-------------	--------------------

A 今年度の成果目標	
・児童の体力の向上と健康で安全な生活習慣の醸成 ・危機管理体制の充実	
B 目標実現に向けた取組み	
項目	具体的な方策
① 体力づくりの取り組みを行う。	・体力テストの結果や体力づくりアクションプランに則った計画的な体育指導の展開
②児童が命を大切にし、健全な生活を送る。	・一人ひとりの子どもが、自他共に命を大切にし、主体的に健康で安全な生活ができるようにする。
② 保護者・地域と連携した危機管理体制の保持	・日常から安全点検を実施するとともに、学校の危機管理体制を確立する。